

—昨年12月に道東自動車道阿寒インターチェンジ（IC）—釧路西IC間が開通し、釧路と札幌が一本の道でつながりました。釧路圏みちとくらしネットワークフォーラムを立ち上げ20年にわたり高速道路の必要性を訴えてこられました。

宮田 小泉政権時に道路公団民営化の話が出て、高速道路の見直し区間として道東道の本別—釧路間が対象に挙がりました。幹線道路は上下水道などと同じ基本的なインフラであり、背骨のようなものです。なんとかしなくてはと、2003年に会を設立しました。—このような活動をされましたか。

宮田 設立しすぐにシンポジウムを開きました。短時間で働き掛けたにもかかわらず総決起集会には800人が参加し、2週間で1万筆の署名が集まりました。これまで道路整備の要望活動は役所中心の期成会が行っていましたが、市民や建設、物流、観光など民間の関係者が声を上げました。そして04年1月の国幹会議（国土開発幹線自動車道建設会議）で整備計画が変更となり、高速道路の整備と管理を国が直接行う

釧路根室圏みちとくらしネットワークフォーラム 宮田

昌利さん（65）

「新直轄方式」の第1号路線として本別—釧路間の整備が決定しました。住民運動が計画変更を後押しした例として注目されました。—その後、活動は「みちから「まち」づくりへ発展しました。

宮田 名称を釧路根室圏

まちとくらしネットワークフォーラムに変え、この地域の道や港、空港をいかに

活用してまちづくりを進めるかという視点で活動しています。新しいビジネスを起すため釧路新産業創造研究会も始めました。地域にあるバイオマス燃料を植物工場に活用したり、陸上養殖や地熱など可能性はたくさんあります。

—高速道路の根室早期延伸が待たれています。

宮田 根室から釧路へ患者を搬送するには2時間以上かかりますが、自動車専用道路になり信号や交差点がなくれば安全性が大きく向上します。また、根室圏のエリアがつながれば観光の周遊性が高まります。

根室延伸に向けては、若手有志による釧路根室圏みちの会が積極的に活動を始めていますので側面から応援していきたいです。40代で活動を始めた私も65歳になりましたが、「まちとくらし」は今後も続けます。みんなで釧路を盛り上げていきましょう。

「釧路は食料基地としてのポテンシャルがまだまだある」と話す宮田座長



（聞き手・荒井純）



昨年12月の道東道開通式。釧路と札幌が一本の道でつながった